

新年のご挨拶



院長 阿部 昌彦

記録的暖冬小雪が続く令和2年の冬となりました。皆さんお元気の事と存じます。目を世界へ向けると昨年来の国際関係緊張のなかで人の世のいさかいをあざ笑うかのごとく意表を突いた新型肺炎の発生と拡散が起きています。日本にも侵入してきていますが何とか無事に収束してくれる事を祈っております。

さて、当院の状況ですが、昨年は病床利用率が向上し経営指標も改善傾向となっております。これもひとえに皆さまがた関係機関との連携協力の賜であります。厚く御礼を申し上げますと共に本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

医療界は今、待ったなしの働き方改革の実現が迫られ、さらに地域医療構想・協議の遅れから公立病院の再編について厚労省から全国で424の病院が名指しされるなどたいへんな課題をいくつも抱えています。医師の働き方改革の問題点を当院に当てはめると現在、常勤医が週末日はほぼ待機状態となるように日当直の医師の応援を外部から得ていますが、これらの先生の時間外勤務時間が超過してしまうと派遣中止になる可能性も出てきております。当院の現状が医師の働き方改革で否定されますと週末の救急体制が維持できなくなってしまうと思います。これは当院のみならず全国各地の医療機関でも同じ問題であり、皆様方の施設でも影響を受けるところがあるのではないのでしょうか。何とか維持されている地域医療の現場に影響のないような方法で決着してほしいものです。

一方各地で問題になっている地域医療構想については留萌管内では医療過疎が進む中ですでに最大限の役割分担ができあがっているためか、問題点があまり上がってきていないようです。言葉を換えると現状の医療機能提供維持が精一杯の状態ともいえます。先だっの地域医療構想に関する留萌管内の病院協議の席でどの医療機関からも最初に上がった声は医師、看護師など医療従事者確保の困難さでした。当院でも欠員を幾つかの職種で抱えながらも何とか病院機能を維持しておりますが常に綱渡り状態です。地方の人口減の中、人材確保はやはり管外から来てもらう事が方法論の一番になるかと思いますが、最近では悪徳派遣業者が道内各地にはびこっているという情報も会合で耳にします。過疎地の医療従事者確保困難を金儲けに利用するなど許せないことであります。

さて暗い話題ばかりではなく当院の取り組みで明るい話題を1つ報告させていただきます。この数年来、地域医療教育研修で医学生医師を地域に呼び取り組を続けてきましたが、今年来訪する医学生（2週間体験型実習）や1ヶ月間の地域研修に従事する初期研修医師は昨年に増して多くなる予定となっております。これらは将来の医師確保につながる研修でもありますし、彼らが将来都会で勤務するにしても当地の地域医療の現状を理解し地域から来ている患者への配慮が出来る医師に育つ動機付けにもなります。日々の医療の現場でこれら当地に不慣れな若い研修医が病診・病々連携のうえで何かとお世話になる事も多いと存じますがこのような背景がある事をご理解のうえご指導ご鞭撻いただけましたら幸いです。

キッズセミナーを開催しました！

11月30日に道立羽幌病院1階において、キッズセミナーを開催しました。

“多くの子供たちが医療に関心を持ってもらうために”をコンセプトに、昨年よりも2ブース増やし、羽幌町と苫前町の小学4年生から中学2年生までの児童52名が参加しました。「いろいろなブースが経験できて楽しかった」「病院の中には意外なものがいっぱい」「人の命を助けることが重大であることが機械の多さでわかった」「病院の仕事に興味を持てた」などの感想と「来年はブースを増やして欲しい」という期待の声も聞かれました。キッズの期待に応えられるよう、職員一丸となりブース開発に邁進してまいります。

医師ブース



超音波エコー検査を体験

看護師ブース



注射器でスライム作りを体験

薬剤師ブース



ジャムで軟膏づくりを体験

放射線技師ブース



クリップでMRIの電磁体験

理学療法士ブース



車椅子と物理療法を体験

検査技師ブース



口の中の細菌を顕微鏡で観察

栄養士ブース



味噌汁の味をクイズで体験

臨床工学士ブース



酸素マスクの体験

救急救命士ブース



救急車内で救急処置の体験

事務ブース



医師と看護師になり写真撮影

12月18日

クリスマスコンサート

PLMBA バトントワリング

“ハワイアン”や“一休さん”の衣装を身にまとい、ポンポンとバトンの演技を全4曲披露しました。入院患者さんや病院職員、当日来てくださった方々は、かわいい演技に目を細め、ダイナミックな演技に目をまるくしたりと、楽しいステージに魅了されていました。



羽幌高校吹奏楽局

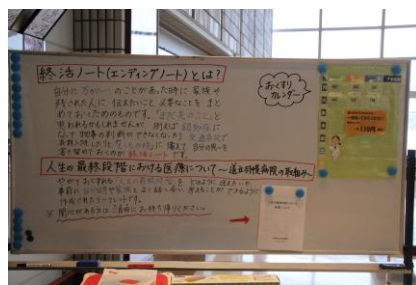
クリスマスにちなんだ楽曲と名曲の全5曲を演奏・合唱しました。演奏中にサンタさんに扮した高校生が、サンタやベルの折り紙をプレゼントする演出があり、おもてなしの優しさを感じました。楽器の音色と合唱に心が和み、素敵なクリスマスを過ごしました。

介護者と家族が安心して生活できる町づくり ～自分の価値観を大切に～ 講演会が開催されました

令和元年11月26日、中央公民館大ホールにおいて、当院の佐々尾副院長による講演が行われ、111名の町民が受講されました。講演内容は、ACP（アドバンスケアプランニング）＝人生の最終段階の話し合いについてです。人は、“いつでも”命に関わるような大きな病気やケガになる可能性があり、命の危険が迫った状態では、約70%の方が周りに自分の考えを伝えられなくなると言われています。つまり、これからの治療やケアなどについて自分で決めたり伝えたりできなくなるため、人生の最終段階について早いうちから話し合いを行い、本人の価値観の共有を関係者で行うことが重要であると話され、ACPの時期や進め方について具体例をあげて説明されました。受講者からは「人生の最終段階の話し合いは必要だと感じた」「自分も必要な時期が来たら、ACPに取り組もうと思った」「自分の意思を家族に伝えることが大切だと思った」などの感想がありました。

当院でも入院患者さんや家族にパンフレットを使って説明をさせていただいております。

会場入り口には、「終活ノート」と「人生の最終段階における医療について」のリーフレットを展示していました。



地域連携室からお知らせ

地域連携室では患者相談窓口を開設しております。いろいろな相談ごとの窓口となり、内容によっては他部署と連携し対応させていただきます。また、レスパイト入院・フレイル外来の窓口にもなっています。お気軽にご相談ください。 電話 0164-62-6060(代表)

患者－医療者パートナーシップ宣言

～当院では患者－医療者パートナーシップ宣言の強化に努めます～

- 医療の主役は患者さます。
- 私たち医療者は、患者様の病気の診断・検査・治療計画について十分な説明をします。
- その上で納得して医療をうけられるように支援いたします。
- わからないことは何でも、お気軽に相談して下さい。